

月報 シオン山

2023年2月5日発行 (No389)

日本バプテストシオン山教会

☎803-0846 北九州市小倉北区下到津2-15-21

Tel(093)561-0772 Fax(093)561-0760 E-mail:bapshion@eagle.ocn.ne.jp

【月間聖句】

あなたがたはそれぞれ、賜物を授かっている
のですから、神のさまざまな恵みの善い管理
者として、その賜物を生かして互いに仕えな
さい。

(ペトロへの手紙一 4章10節)

「日々励まし合いなさい」

中村響子

私は、愛の園保育園の法人理事を務めさせていただいている関係で、年に一度、園だよりの巻頭言を担当しています。お読みになられている方もいらっしゃると思いますが、改めて皆様と分かち合いたいと思い、昨年寄稿した内容から書かせていただきました。その月の聖句は、『日々励まし合いなさい』で、それはヘブライ人への手紙3章13節「あなたがたのうちだれ一人、罪に惑わされてかたくなにならないように、「今日」という日のうちに、日々励まし合いなさい」の一部でした。私はこの箇所を読んでいてふと、5月の出来事を思い出したのです。昨年の5月中旬頃に、当時4歳の長女が新型コロナウイルスに感染しました。その時はまだ今よりも感染者と濃厚接触者の自宅待機期間も長

く、特に小さい子どもは家庭内隔離が難しいため、通常よりもさらに待機期間が長くなり、急ぎの仕事がある夫だけ「逆隔離」という形をとっての生活となりました。幸い長女の症状は半日程度の発熱だけですぐに快復しました。しかしながら、消毒作業や時間差での食事の準備、娘たちの世話を一人で担う毎日に私自身が疲れて、イライラが募ってしまい、つい家族に強くあたることがありました。そんな時、長女が、次女を相手に保育園の礼拝ごっこをしている中で「早く病気が治って保育園に行けますように。お友だちも、みんなも守ってください。」と祈っていたのです。今まで食前の祈りなどを何となく真似していたのに、それは真似事ではない、紛れもなく彼女自身の『祈り』でした。その祈りに触れて、私はクリスチャンでありながら祈る事も忘れ、悪いことばかりを考えて態度に現わしていた自分を恥ずかしく思いました。新型コロナウイルスに感染して一番辛い思いをしていたのは長女だったのに、周りを気遣う彼女の祈りにとても励まされました。そしてこれまでの待機期間中の生活を振り返り、本当に多くの方々に様々な形で励まされていたことに気づかされ、改めて感謝の想いが溢れました。そこで、定期連絡をくださっていた保健所の方へ、最後の連絡の際に感謝の気持ちをお伝えしたら「そのように言っただき私たちも励まされます。お嬢様が良くなられて本当に良かったです。大変でしたね。」と言ってくださり、心穏やかに残りの待機期間も過ごすことができました。

改めてこの時のことを振り返ってみると日々の私たちの生活はこのような事の繰り返しではないかなと思うのです。余裕がなくてイライラしたり、誰かにそのイライラをぶつけてみたり。しかし、誰かのことを思い、祈りあうことで心の平安につながることを、娘を通して神様が示してくださいました。シオン山教会も、100周年を迎えた今、また新たな困難とチャレンジの中にいます。簡単に解決するものではないと思いますし、壁にぶつかることも多いと思います。しかしながら誰かを責めたり、この状況を不幸だと思って卑下したりするのではなく、こういう時だからこそ互いに励ましあいながら、一歩ずつ同じ方向をみて進みたいのです。先ずは、そのために私にできることを一生懸命探し、祈りつつ向き合いたいと思います。